

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

阿部晶子

内坂信也

石坂郁代

稲本陽子

勝木準子

菅野倫子

倉内紀子

倉智雅子

佐藤睦子

椎名英貴

中村光一

長谷川賢

原田由紀

原田浩美

春原則子

平島ユイ子

深浦順一

福岡達之

藤原加奈江

水田秀子

矢守麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木準

日本では穏やかな秋が過ぎていきますが、世界ではイスラエル・パレスチナ紛争やウクライナ・ロシア間の戦闘など悲惨な状況が続いています。すべての人々が共生できる社会を実現することがいかに難しいかを思い知らされる日々です。

今号には、原著5編、症例報告3編、短報1編が掲載されています。このうち、小山内奈津美氏と坂田恵理子氏の症例報告は言語聴覚療法のアウトカムを検討したものです。前者では、完全側臥位法と冷凍ゼリー訓練が重度偽性球麻痺患者の咽頭クリアランスや咽頭知覚改善等に効果があることが報告されています。後者では、音声障害や認知コミュニケーション障害を呈し、人工呼吸器管理となった終末期患者に対するAAC指導の有効性が検討されています。このような研究は、エビデンスに基づく言語聴覚療法（evidence-based practice：EBP）を実施する際の貴重なデータを提供します。EBPは、自分の経験や熟練にのみ頼るのではなく、信頼できる科学的根拠、患者や家族の意向や臨床家の専門的知識と経験などを統合して最良の評価・訓練・指導を提供する行動指針です。本誌は、言語聴覚障害がある人に対し、“信頼できる科学的根拠”に基づいた臨床が提供できるよう、言語聴覚療法のエビデンスを集積する役割を担っています。

臨床のアウトカムを検討する研究デザインにはいくつかの種類があります。エビデンスレベルが最も高いのはランダム化比較試験ですが、言語聴覚研究では観察研究がよく実施されます。観察研究のうち比較対照があるのは症例対照研究、横断研究やコホート研究などであり、比較対照がないのは単一事例研究や症例報告などです。いずれも臨床の質の充実には欠かせない研究であり、言語聴覚療法のアウトカムを追究した研究がさらに増えることを望みます。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第20巻 第4号) 2023年12月15日発行 [年4回 (3, 6, 9, 12月) 15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：2,200円 (本体2,000円＋税10%)

2023年年間購読料：8,250円 (4冊、税込、送料販売会社負担)

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会 (会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX03-6280-7629) <https://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis

Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2023, Printed in Japan

制作・販売：(株)医学書院 (代表：金原 俊) <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

販売・PR部 ☎03-3817-5650 FAX03-3815-7804

印刷所 (株)真興社

広告取扱 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 FAX03-3817-8044